

あなたなら きっと できる!

Yes, You Can

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 進路通信 2号 令和4年6月1日発行

問合せ先 : sinnro-soudan@ohmiya-sd.spec.ed.jp

新年度が始まって2か月…。コロナウイルスの感染防止をしながらの授業参観や運動会、高3修学旅行等、大変忙しい2か月であったように感じます。やはり行事を通して成長することが多く、学校生活に行事は欠かせないと感じる日々です。

さて、先日はお忙しい中、進路希望調査へのご協力ありがとうございました。その中でいくつかの質問が寄せられましたので、質問に対する回答をつけて紹介いたします。

Q1. コロナ禍でも高等部1年生の時からできることは実施して欲しい。(高等部)

A. 感染状況を見ながら、例年通りの進路行事を実施していく計画です。また、LHR や総合の授業の中でも進路に関する学習をしていきます。

Q2. ダンスをやりたいと言っているが、ダンスの専門学校があるのか。短期大学も含め、どんなところがあるのか情報が欲しい。(高等部)

A. まずはお自身でインターネット等を使って情報を集めて頂くことをお勧めします。将来、専門学校や短期大学に行くのであれば、自分で情報を集める力が大切になってきます。また、大学や専門学校の案内を資料請求できるパンフレット等も進路室前の廊下の棚に置いてあります。

Q3. 地域の学校に比べて、学力の差や単元なども足りない所もあるので、家庭での勉強方法や学びきれていない所があれば、教えてほしい。出来るだけ学力の差を埋めたいと考えています。(小学部)

A. 基礎学力は小学部の時に、しっかり身に付ける必要がありますので、勉強方法や学びきれなかった単元については、随時担任・教科担当にご質問ください。

Q4. どの位の割合で、中学部、高等部に進学するのか、ほかの学校名など知りたい。(小学部)

A. 昨年度は、6名全員が本校中学部、13名中9名が本校高等部に進学いたしました。それ以外は、筑波大学附属聴覚特別支援学校、東京都立立川学園、花咲徳栄高校、県外の私立高校に進学いたしました。今年度については、3月の進路だよりでお伝えしていきたいと思えます。

Q5. 大学の指定校推薦はあるか。(高等部)

A. 残念ながら、本校には指定校推薦という形で大学からの推薦枠はいただいております。

Q6. 大学受験や入試の際に、情報保障などの大学との交渉を手助けしていただくことはできますか？(高等部)

A. 大学側から要請があれば、入試や入学後の情報保障等の相談を行います。入試相談の際に大学側に確認いただき、お子様を通じて連絡をいただくと幸いです。

Q 7.大学の情報保障についての情報はるか。(高等部)

A. 筑波技術大学の情報はもちろんですが、ろうの学生や卒業生が通っている大学についての情報はいくつかございます。お子様を通じて担任または進路担当にご確認いただければお答えいたします。お子様が興味をお持ちの大学があるようでしたら、まずはご自身でオープンキャンパス等にご参加いただき、大学にご確認いただくのが一番確実かと思ひます。



Q 8.学校推薦に向けた指導やフォローはあるか。(高等部)

A. 高3の進路に関しては、進路学習とともに夏休み中の補習、面接練習を行っております。

Q 9.県北部の求人情報も得られるか。(高等部)

A. 本校の生徒が就職を希望した場合、障害者雇用という形で就職先を決めることがほとんどです。本校に送られてくる求人は実習をした企業や卒業生が就労している企業になります。もちろん、新規開拓という形で就職説明会等に参加して情報収集しておりますし、ハローワークとも連携して希望する職種の情報も得ております。

Q 10.就職を希望していますが、まだ自分が働くということを具体的に想像できていないので、そこを意識させる指導をお願いしたい。(高等部)

A. 中学部の時に学校の近隣の企業・施設で2日間体験実習を行います。また、高等部では1年生か2年生の夏休みに進学か就職希望の関係なく体験的な実習を行っています。実習期間も中学部の時より長く、5日間程度行います。また、実習場所も様々です。その体験を通し、少しでも自分が働くことイメージを持てるよう支援していきたいと思っております。また、就職希望者は2年次に体験実習とは別にもう1回実習や企業見学を実施するようにしています。ご家庭でも働くとはどういうことなのか、家族が働いている様子の話をして頂けると幸いです。

Q 11.家庭で進路に向けてすべきことがあれば教えてほしい。(高等部)

A. 年齢にもよりますが、まずは小学部の時に基本的な生活習慣を身につけることが大事です。毎朝決まった時間に起き、学校に登校する…当たり前のことを小さいうちにしっかり身につける必要があります。本校の就職希望者の雇用形態は障害者雇用となる企業がほとんどです。その企業の採用担当者から、毎回「挨拶がしっかりできる人」を採用したいと言われます。仕事に関する技術よりも、企業が重視するのは挨拶ができるということなのです。また、中学部以降では、「自分で起きられる」、「働き続けられる体力をつける」ということです。自立に向けた準備です。就職希望者は毎年、ハローワークの求職登録を行います。その際、必ず、「自分で起きられますか」と聞かれます。社会人になって、親から起こしてもらうことはあり得ませんからね。また、様々な体験をして、視野を広げることも大切です。これをすべきというより、お子様と一緒に将来についての話をたくさんしていただけるのが一番かと思ひます。

